

押小だより

て ん し ん ら ん ま ん

天真爛漫



令和6年12月25日
さくら市立押上小学校
令和6年度 第11号
文責：仁平 博幸

相手を思うこと

今月11日、幼稚園・保育園の年長さんをお迎えして、1年生が「なかよし会」（交流会）を行いました。

11月のある日、1年生の教室に行ってみると、子どもたちが、その会で一緒に遊ぶための準備をしていました。「どんなものだったら楽しい遊びになるかな」「来年生に分かるかな」など、今度来る「お客さん」のことを考えて、楽しそうなおもちゃやゲームを作っていました。

何日か経って、1年生教室をのぞくと、「あ！校長先生だ。今から、お話をするので聞いてください。」と、子どもが近寄ってきました。いよいよ交流会間近となったその日、スピーチ担当の子が、年長さんに分かりやすく話しているか確認をしていたところでした。「こんな話で分かってもらえるかな」「楽しく遊べるかな」などと、お客さんのことを真剣に考えて準備していました。

交流会の目的は、「自分が楽しくなる」のではなく、「来る人が楽しくなる」です。こんな「相手意識をもつ」ことを意識して1年生も準備をしていました。また、事前に、子どもたちは活動カードに「めあて」と「がんばること」を書いていました。読んでみると、「園のみんなが楽しくなるように」「ワクワクしてもらえるように」「笑顔になってもらいたい」など、相手意識をしっかりとっていることが分かりました。きっと、来る子も1年生も、みんなが楽しくなる交流会になるだろうと思いました。



いよいよ当日。園の年長さんをお迎えし、「なかよし会」がスタート。はじめのあいさつ、そして準備してきたおもちゃで遊びます。いろいろ説明したり、一緒に遊んだり、1年生も楽しそうですが、とにかく園の子たちに一生懸命接しています。

その後、運動会でおどったダンスを披露。たくさんの拍手をいただきました。「ダンスの感想を聞いてみたい」と1年生からリクエスト。園の子から「上手だった」「かっこよかった」とお褒めの言葉をもらって1年生はとてもうれしそうでした。

最後は、学校の中を少しだけ探検し、いよいよお別れです。体育館に集まってプレゼントを渡してさよならをしました。プレゼントは、大切に育ててきたアサガオの種と、みんなで作った松ぼっくりけん玉。「春になったらまいてね」のメッセージ付きでした。1年生がいつまでも名残惜しそうに手を振っているのが印象的でした。

充実した楽しい「なかよし会」ができました。この活動の大切な点は、前述した「相手意識」です。いかに、お客さんである年長さんが楽しいと思ってもらえるか、分かってもらえるかななどを考えて準備したり、接したりする。今回の活動を通して、このような「相手を思う」ことを1年生は学んだようです。こんな積み重ねが子どもたちの成長につながっていくのだろうと感じました。（仁平博幸）

皆さまありがとうございます（感謝の集い）

今月13日、「感謝の集い」を行いました。これは、児童会の行事で、日頃お世話になっている地域の方々をお招きして、感謝の気持ちを伝えるものです。

交通指導員さんやスクールサポーターさん、読み聞かせボランティアやさまざまな学校支援ボランティアのみなさん、まつのみパトロールのみなさんなどにお越しいただきました。

体育館で全校児童が集まって実施する予定でしたが、諸事情により、ランチルームで、児童を代表して6年生による会（他学年は教室でリモート参観）に変更いたしました。代表児童あいさつと、全校児童が書いた感謝のお手紙を贈呈しました。感謝の手紙は、私も一枚一枚目を通し、心を込めて書いているものでしたので、お越しいただいた皆様に、少しでも子どもたちと学校からの感謝の気持ちが伝わったなら幸いに存じます。

改めて、地域の皆様、ボランティアの皆様、ありがとうございます。引き続き、子どもたちのためにお力をお貸しくさせていただきますよう、よろしく願いいたします。来年もどうぞよろしく願いいたします。



自分を・相手を認め、大切にできる人に

12月是人権を大切にする月として、毎年12月4日～10日を「人権週間」と定め（法務省）、全国的に人権啓発活動が強化して行われています。（12月10日は「人権デー」と定められています。）

本校でも、この12月は、子どもたちが、「大切な人権」を意識する活動を行っています。今年度は、11日に「人権朝会」を実施しました。朝会では、代表児童（掲示委員会担当児童）が「人権」についてみんなに伝え、年度始めから行ってきた「ハッピーツリー」（全校対象のよいところの伝え合い活動）に寄せられた「友だちのよいところ」「がんばっているところ」を発表しました。

前号（第10号）でもお伝えしたことと重なりますが、友だちのよいところを認める（認め合える）ことは、「他人に関心をもち、その人のよさを見つけ、受け入れられる」という人権の基礎とも言える大切なものです。よさを見つけ伝え合うことは、自分のよさを発見することにもつながります。

そして、よさを含め、相手のことを大切にすること・尊重することが人権意識として大切になってきます。自分とちがうことを受け入れられる心の広さ（寛容）を育てていく、そして、相手を大切にすることは、自分を大切にすることにつながることを意識していきたいものと思っています。

これからも、もっともっと子ども同士、先生と子ども同士がよさを認め合い、「みんなに自分のよさを認めてもらってうれしいな」と安心できるとともに「幸せ」を感じられるとよいなと思います。代表の児童のみなさん、すてきな朝会を企画・運営、ありがとう。



祝 本校児童が大賞を受賞（ざぶん賞2024）

新聞でも報道され、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、本校の5年生児童が、このたび、「ざぶん賞2024」の「ざぶん大賞」（最高賞）を受賞しました。

この「ざぶん賞」は、水と生命の大切さをテーマにした作文・童話・詩等に関する全国規模のコンクールです。今回大賞を受賞した作品「ホタルのすみか」は、家族で近所の田んぼに行った際のある出来事から、人間だけでなく、まわりの生き物にとって住みやすい場所を守らなくてはならないことに気付いたことを綴ったものです。

お祝いを伝えようと、受賞児童に校長室に来てもらった際に、どうして応募しようと思ったの？とたずねたところ、「先生からこの「ざぶん賞」について聞いたとき、せっかくのチャンスだから、家族で遊びに行ったときのことを書いてみようと思いました。」とのことでした。5年生は、学校でも、総合的な学習の時間や国語等で環境について学んでいます。環境に関する問題を自分ごととしてとらえ、これからの自分はどうしていくかを、見つけ・感じ・伝えられること、すばらしいなと感じました。改めて、大賞受賞、本当におめでとうございます。

なお、本校からは多くの児童がこのコンクールに参加・応募しました。みんなの努力とチャレンジにも感謝し、敬意を表します。あわせて、ご協力いただいた保護者の皆さまにも深く感謝申し上げます。（本コンクールは、個人応募（家から直接インターネット等で応募）となっていました。応募手続き等でのご協力にも感謝申し上げます。）



※写真は、県の表彰式（12/22 県立博物館にて）から

～充実した「ふれあいの里」に… 改めて感謝申し上げます～

10号でも「ふれあいの里」（11/16）について触れましたが、「ふれあいの里」では

- 「創作活動」（1・2年生）
- 「バルーンアート」（3年生）
- 「手話体験」（4年生）
- 「夢を叶える笑顔の食育」（5・6年生）
- 「よさこいエクササイズ」（3～6年生）

の5種類の講座・活動を実施しました。

各講座には、地域の皆様やボランティアの方々、リーダースクラブの皆さんにご協力いただきました。本校児童の豊かな体験活動のために本当にありがとうございました。また、多くの保護者の皆様に来校、参加いただき、充実した活動となりました。改めて感謝申し上げます。お世話になりました。



★冬休みは、明日26日（木）～1月7日（火）です。年末年始が入ります。事故や病気・けがに十分気を付けて、充実した休みとなることを願っています。皆様、よいお年をお迎えください。

押上小がこんな学校に…

だれもが
安心して力を出し、
みんなが
幸せを感じる学校

冬休み、元気に
すごしてくださいね！

